

令和 4 年度 防災対策事業報告

災害等対応の報告

1 令和 4 年 7 月 4 日の雷雨

十勝全域に竜巻注意情報が発表され、帯広市内には雷注意報と濃霧注意報が発表されていた中、午後 3 時 46 分頃、市内で停電が発生。一時、最大で市内 16 地区、10,680 戸で停電が発生したが、同日午後 6 時 26 分には解消した。停電の影響により、一部商業施設で一時的に臨時閉店などの措置をとったほか、雨による影響で西 20 条南 2 丁目の市道が一部冠水した。

2 令和 4 年 8 月 16 日の大雨による道路冠水等

8 月 15 日から 16 日にかけて、前線を伴った低気圧が北海道付近を通過し、十勝地方に前線や低気圧に向かって暖かく湿った空気が流入した影響で、15 日夕方から雨が降り始め、16 日朝からは低気圧の接近に伴い雨が強まった。

①警報、土砂災害警戒情報への対応

帯広市においては、16 日午前 8 時 37 分に「大雨警報（土砂災害）」、同 9 時 20 分に「土砂災害警戒情報」、同 9 時 37 分に「洪水警報」が発表され、帯広市災害対策部を設置。同 11 時 16 分、岩内・拓成・八千代地区に避難指示を発令し、同 11 時 57 分に戸蔦林業センター及び広野小学校に**避難所を開設**した。大雨警報及び洪水警報が午後 2 時 50 分に解除されたことに伴い避難所閉所。避難者は無し。

②河川の増水に伴う道路冠水への対応

新得町で、統計開始以来の日最大 1 時間降水量を更新（35.5 mm）するなど、十勝北部の山間部を中心にまとまった雨が降った影響で、十勝川の水位が上昇し、16 日午後 0 時 20 分に十勝川（帯広観測所）が「氾濫注意水位」（警戒レベル 2）に到達。伏古別川の十勝川への流入が停滞したこともあり、同日昼過ぎぐらいから、木賊原樋門付近の低地で道路冠水が発生し、通行止めなどの措置をとった。

同 1 時 40 分、帯広開発建設部に木賊原樋門の閉鎖と排水ポンプ車の出動を要請。同 2 時 14 分に樋門が閉鎖され、同 5 時から、ポンプ車による排水作業を開始。伏古別川より十勝川の水位が下回ったことなどから同 9 時 14 分に樋門を開門し、ポンプによる排水を停止した。市道通行止めは同 7 時 27 分に最終箇所を解除。

3 令和 4 年 8 月 18、19 日の大雨による土砂災害への警戒対応

15、16 日にかけての降雨で土壌雨量指数が高い状態が続いた中、その後の降雨により、帯広市で再び大雨警報（土砂災害）が夜間に発表される可能性が見込まれたことから、自主避難をする市民のために 18 日午後 5 時に戸蔦林業センター、八千代農業センターの 2 カ所の**避難所を開設**。土砂災害特別警戒区域に住居等がある岩内地区の 2 世帯に電話で状況を連絡した。

その後、警報発表には至らず 19 日午前 7 時に両避難所を閉鎖。避難者は無かった。

4 令和 4 年 12 月 22、23 日の大雪による停電対応

湿った重い雪の影響で電線等への着雪が多発し、停電や電話の不通が発生。帯広市内では 23 日午前 0 時から 25 日夕方までの間に、農村地区を中心に延べ約 900 戸が停電し、戸蔦林業センターと清川農業センターを**休憩所として開設**した。電話の不通は延べ約 500 件。十勝管内で高速道路 3 路線、国道 4 路線、道道 8 路線が一時通行止めとなり、鉄道の運休、航空機の欠航など交通にも支障が生じた。22 日午前 0 時から 23 日正午までの降雪量は、帯広市街地 37 cm、帯広空港 52 cm。帯広市の 12 月の「24 時間降水量」及び「48 時間降水量」は 76 mm となり、1963 年（昭和 38 年）の統計開始以来の日最大値を更新。

1 災害に強い都市基盤整備

(1) 耐震改修促進計画

- 特定建築物の耐震化率（令和3年度末）
87.4%（内訳：総数668棟 耐震584棟 非耐震84棟）
- 木造住宅への耐震化支援
無料耐震簡易診断、耐震診断補助金、耐震改修補助金、旧耐震住宅建替え補助金

(2) 災害対応に配慮した道路整備・修繕

- 幹線道路等の整備・修繕
都市計画道路の整備、橋梁・道路ストックの修繕

(3) 上下水道の災害対策

- 上下水道インフラの整備
雨水管整備、汚水柵やマンホール蓋の地下水浸入対策
- 上下水道施設の浸水対策
稲田浄水場の浸水対策

2 防災意識の普及啓発

(1) 防災セミナーinとかち2022（令和4年7月27日（水））

場 所：とかちプラザ レインボーホール
主 催：帯広市町内会連合会、帯広市
参 加：77人
内 容：講義「防災に役立つ気象情報 「キキクル」の話、キキニクル？」
講 師：帯広測候所 予報官 小松 将博 氏

(2) 地域防災訓練（令和4年9月18日（日））

場 所：よつ葉アリーナ十勝（帯広市総合体育館）サブアリーナほか
主 催：北栄連合町内会、帯広市
参 加 者 数：129人（一般参加者89人、訓練関係機関40人）
参 加 機 関：北海道開発局帯広開発建設部、陸上自衛隊第5旅団第4普通科連隊、帯広測候所、
帯広警察署、とかち広域消防局、とかち防災マスターネットワーク
訓 練 科 目：住民避難訓練（情報伝達、避難誘導）、避難所開設・運営訓練、関係機関等防災
展示

(3) 防災リーダー研修会（令和4年11月17日（木））

場 所：帯広の森コミュニティセンター
主 催：帯広市町内会連合会、帯広市
参 加 者 数：25人
内 容：講義「防災リーダーに求められること」
講 師：危機対策課 係長 高田 敦史
展 示 体 験：避難者の受入れ、段ボールベッド組立体験等

(4) 防災グッズ展 (令和5年1月16日(月)～20日(金))

場所：市役所1階市民ホール

見学：417人

展示内容：非常持出品、非常食料、冬の防災用品、家屋転倒防止器具、感染症対策、市備蓄品の展示 ほか

(5) 冬季防災訓練 (令和5年2月4日(土))

場所：豊成小学校

主催：帯広市

参加者数：147人(訓練参加者77人、訓練関係機関70人)

協力(予定)：帯広管工事業協同組合、帯広空調衛生工事業協会、(一社)帯広建設業協会、十勝建築災害対策協議会、帯広建築工業協同組合、北海道LPガス協会十勝支部、帯広塗装工業協同組合、北海道コカ・コーラボトリング(株)帯広事業所、(株)伊藤園帯広支店、サントリービバレッジサービス(株)帯広支店、(公社)隊友会帯広東支部・西支部、(公社)隊友会道東連合会女性部、とちかち防災マスターネットワーク、(株)マテック、とちかち広域消防局、帯広市消防団、帯広トヨペット(株)、トヨタカローラ帯広(株)、ネットヨタ帯広(株)十勝三菱自動車販売(株)、帯広日産自動車(株)、帯広三菱自動車販売(株)、(株)ズコーシャ、帯広市親子防災講座実行委員会(順不同)

訓練科目：給水訓練、救助救出訓練、応急手当訓練、停電対策訓練、防災グッズ展示、避難所設営訓練、親子防災教室

(6) ハザードマップ及び防災ガイドの作成

土砂災害警戒区域の指定(令和4年2月)及び中小河川の浸水想定の見直し(令和4年5月)を受け、土砂災害ハザードマップと、新たに浸水想定区域図が作成された中小河川のハザードマップをそれぞれ作成したほか、それらを掲載した冊子「おびひろ防災ガイド」を作成して全戸配布(令和5年3月末予定)する。また、パソコンやスマートフォン等に対応するWEB版のハザードマップを作成している(3月供用開始予定)。

3 防災体制の充実

(1) 災害用備蓄資器材等の購入・更新

[定期的な更新・購入]

- 災害備蓄食(アルファ米)の購入(9,750食)
- 災害備蓄食(サバイバルフーズ)の購入(2,340食)
- 液体ミルクの購入(192缶 48人×0.5日分)
- 粉ミルク(アレルギー疾患対応)の更新(24缶 54人×2.5日分)
- 生理用品の購入(2,580枚)
- 紙おむつの購入(712枚 幼児用328枚、高齢者用384枚)
- アルミマットの購入(1,120枚)
- 毛布の購入(930枚)
- 糞尿凝固薬品の購入(5,600回分)
- 簡易トイレの購入(13個)
- 井容器の購入(2,600個)
- 使い捨てカイロの購入(1,680枚)

(2) 備蓄食料の市民配布

家庭での食料備蓄の啓発のため、消費期限を迎えるアルファ米を広報等の周知により希望する市民や団体等に配布。 2, 240食 43団体

(3) 拠点備蓄倉庫の運用開始

帯広市の災害備蓄品の集中保管する拠点備蓄倉庫が令和4年3月に完成し、同5月に市内公共施設に分散保管していた備蓄品を集約。各指定避難所に整備した防災備蓄倉庫とあわせ、防災備蓄資機材の新たな管理体制へと移行した。

(4) 災害時の広報・通信体制の充実

【帯広市地域防災無線の概要】

統制局（統制台：総務部危機対策課）、簡易中継局（広野小学校）、半固定無線局82局、車載無線局25局、携帯無線局13局 合計123局

- 地域防災無線の維持管理（保守点検実施）
- Jアラート配信訓練（地震想定、全国一斉訓練）
日時：令和4年11月5日（金）
対象：市内全小中学校、南商業高校
※ほか、国民保護事案を想定したものとして令和4年5月19日（水）に実施
- 地域防災無線通信連絡訓練
日時：令和4年12月9日（金）～16日（金）
対象：地域防災無線を設置する全施設
- 防災協定に基づく避難所施設等のWi-Fi環境整備（全15箇所）
- 緊急情報一斉伝達システムの運用
運用開始：令和2年5月1日
登録者数：電話・ファクス 167件（令和5年2月現在）
メール 1,274件（同）※うち、454件は市職員の緊急連絡用
- SNSを活用した情報発信（令和5年2月現在）
帯広市公式LINE 登録者数 約24,400人
帯広市公式Facebook フォロワー数 約6,200人
帯広市公式Twitter フォロワー数 約6,100人
Yahoo!防災速報 約42,900人
※Yahoo! JAPAN アプリで帯広市を地域設定している利用ユーザー数も含む

(5) 自主防災組織の育成等

- 自主防災組織の結成・育成を推進
連合町内会ベースでは33対象組織中、現在26組織が結成
単位町内会では334組織が結成
- 防災活動助成事業
自主防災組織等が実施する防災研修会や訓練等に対して費用を助成

	助成団体数	助成額
連合町内会	2団体	上限15,000円
単位町内会	36団体	
合計	38団体	467,467円

※令和5年2月21日時点交付済み額

- 防災講師派遣事業
自主防災組織等が実施する防災研修会や訓練等に対して講師を派遣
実施団体：7団体、参加人数：261人 (令和5年3月末見込み)
- 職員による防災出前講座の実施
実施団体：21団体、参加人数：677人 (令和5年3月末見込み)
- 親子防災講座の実施
実施回数：60回、参加人数：4,148人 (令和5年3月末見込み)

(6) 災害時要援護者対策

- 災害時要援護者の登録状況
1,646人が登録、うち317人(19.3%)が個別計画を作成
(令和4年12月末時点)
- 個別計画作成協議会の設置状況
11連合町内会(むつみ、大空地区、やまと、西帯広、西帯広ニュータウン、大正、広陵、柏林台、稲田地区、新柏林台、緑ヶ丘の各連合町内会)、14単位町内会の合計25の地区で設置
(令和4年12月末時点)

(7) 市職員訓練

- 避難所開設訓練の実施
参加者：帯広市職員54人
会場：ソネビル6階講習会室
[基礎訓練]
日程：令和4年6月21日(火)、22日(水)両日の午前・午後(各3時間)
内容：避難所運営ゲーム「Doはぐ」を通じた避難所運営の模擬訓練、避難所で使用する感染症感染症対策用品の展示を実施
- 避難所開設訓練の実施
参加者：帯広市職員52人
会場：帯広豊成小学校屋内運動場他
日程：令和5年2月4日(土)10時～12時(冬季防災訓練の前段に実施)
内容：実際に避難所となる施設において、避難所の受付訓練や防災無線、小型発電機の操作訓練を実施

(8) 防災協定の締結

締結日	相手方	協定名
R4.5.31	北海道電力株式会社、北海道電力ネットワーク株式会社	大規模災害時における相互協力に関する基本協定
R4.7.22	株式会社 AIRSTAGE	災害時におけるドローンの活用に関する協定書
R4.10.31	明治安田生命保険相互会社	災害時における応急生活物資の供給に関する協定書
R4.12.22	東日本電信電話株式会社北海道事業部	大規模災害時における相互協力に関する基本協定

※協定締結数 自治体相互応援協定 2
道が締結し市町村も含まれる協定 3
帯広市が締結した協定 82